

関西の景気トピックス【雇用関連（25 年 9 月）】

- 25 年 9 月の労働力調査（総務省）によると、近畿の完全失業率は 2.7%（原数値）と、前年比で 0.1 ポイントの低下となった。前年比での低下は 2 か月ぶり。変化の内訳は、就業者数が前年比で 4 万人の増加で、失業者は 1 万人の減少、非労働力人口は 10 万人の減少となっている。
- 一方、近畿の有効求人倍率（厚生労働省）は、25 年 9 月は 1.13 倍（季節調整値）と前月比で横ばいとなった。ここ半年程度の動きをみる限り、求人倍率の動きに大きな方向感を感じられない。
- 直近の雇用市場をみると、新規求人数の推移について、地方圏を中心とした減少傾向が進んでいる。3 大都市圏と地方圏の推移をみると、その違いは顕著といえる。人手不足の状況は、むしろ地方圏の方が深刻なはずであるが、中小企業の厳しい収益状況を反映した動きとみられる。
- 特に、今後は最低賃金の引き上げが始まる中、今年度は特に引上げ規模が大きいだけに、その影響にも注意が必要とみられる。

